

日本語小論文を書くための10箇条

2005年2月10日 安倍富士男

「小論文の書き方」(桐原書店)の重点ポイントを整理し、英文ライティングとの比較して文章を書きました。

1 書き写しで文章力をつける

原稿用紙に慣れるには、文章をそのまま書き写す。これが非常に効果がある。原稿用紙の使い方指導とは、段落の1字下げ、句読法、数字、英文字の書き方のこと。

書き写しが効果ある理由は2つ

- 1 書き慣れに役立つ とりあえず書くことで、書くことへの抵抗を減らす
- 2 思考の追体験が可能 文章を書いた人の頭の使い方がわかる

英文エッセイライティングでも、ぜひ取り入れたい。指導の段階はさらにスモールステップになる。

理論説明(理屈の理解、用語の理解、語法の理解)

書き写し(実際に大学入試の赤本の解答解説などを利用して、書き写しを行う)

(また定型フォーマットで書かせることで、フォーマットへの慣れを行う)

2 とにかく1文ずつ短かく。

日本語では文がながく、結論が曖昧な思惑的な文章が名文とされる傾向があり、1文1文が短いとあからさますぎる印象を与えることがあるので、どうしても我々の思考回路になじまないものがある。しかし、明確に理解できる文は短くなければならない。

3 発想法を体得しよう。

この書くに値するものを見つける方法がある。箇条書き発想法。箇条書き発想法(10分間で10個というように時間と個数を決めて練習)。「無理をしてもとにかく10個みつける」というクセをつける箇条書きの書き方は思い浮かんだ順序で書く。これを整理すると3つのレベルに分けられるという。

1~3	定番ゾーン	誰でも思いつくようなこと わかりやすく無難 問題は切り口に工夫がいること
4~7	発見ゾーン	個人差が出る部分 作文の題材には好都合 イン パクトを考えてさらに絞り込み
8~10	独自ゾーン	自分しか思いつかないもの 伝え方に工夫が必要 当たればヒット、空振りの時はオタク扱いされる。

作文ではこの10個から3つ位に絞って書く。もっと踏み込んだ内容にするには1つに絞って書く。

例えば、次のような練習をする

(例)自分の高校生活の中から、行動力を示すエピソードを10項目書き出す(制限時間10分)

次にその10個の中から、文章として表現するにはどれを選ぶか3つに絞りなさい。

さらに1つに絞って書くにはどれにしますか、1つ選びなさい。

この練習は、効果的である。ぜひ何パターンかやっておきたい。別プリントで用意したのでそれで練習するとよい。

4 字数に負けない。

原稿用紙に圧倒されて書き始められないことがある。しかし、いっぺんに全体を書くのではなく、ある程度のまとまり(パーツ)の文章を組み合わせて、最終的に全体を作り上げる感覚を磨く。このように規模を意識すると作文が楽になる。

(例題) 私の高校生活

(条件: 2段落構成 前段には体験や見聞を書き、後段にはそのことについての自分の考えを書く。全体で200字)

この場合、普通は前段を100字、後段を100字に割り当てる規模を考える。

作文に説得力を持たせるには、体験や見聞をやや詳しく書くことになるので、前段150字、後段50字でも可能など。

いずれにしてもどの位をデータ(体験や見聞など)部分に、どの位を主張部分に割り当てるかという規模感覚を磨くことが大事。なお、主張のある文章を書くには次の3つの要素があることを覚えておくこと。

- 1 データ部分(体験や見聞などの部分)
- 2 理由付け(データをある立場から眺めた結果、次の主張が必然的に出てくるようにする部分)
- 3 主張部分(データに理由付けしたことによって、生まれる自分の主張)

作文では、書き出しから最後まで関連づけて書くことが大切。

医療系小論文の指導の時に、「あるまとまった内容を表す日本語の文章は、ほぼ50字程度である。この表現の最小単位の規模を覚えておこう」自分の経験上から指導した。「日本語で120字以内で答えよ」などのように時数制限のある問いに答えるときには、この規模感覚は非常に大事である。他にもメリットがあり、150字以内で答えよと言うときに、英文を読んで、50字程度しか書けなかったら、何かが不足しているか、別の箇所を答えていると判断できるようになる。

5 序論の書き方

本格的な小論文に挑戦するとき、一番やっかいなのは「序論」の書き出しの部分。だが、小論で最もエネルギーを費やさなければならないのは、実は中心となる本論部分。だから、序論の書き出しは、基本のパターンを覚えて、それを工夫して書く。序論とは、小論文の中で、述べていこうとする話題を提示したり、問題提起をしたりする部分。書き慣れていない人は、「何を書いたらいいかわからない」とよく言う。

しかし、序論には決まった書き方があるという。次の方法が紹介されている。

疑問から始める	もっとも基本的な序論の型式 「Aとは一体、何か」「Aとは なのだろうか」 もし疑問形だけは文の収まりがつかなければ、「最近、よく～と言われているが」などと前提条件を付加すると落ち着きが良い。
結論から始める	課題が「 をどう考えるか」という問いの形の場合に、まず「私はこう考える」と結論を書いてしまう方法。 ただし、序論で結論に関して絞り込んで書くと、後半が書きにくくなる。
定義から始める	「私にとって とは、～である」で書き出す。 課題となっていることが曖昧であったり、あまりに広すぎたりする場合に有効。一般的な定義、辞書的な定義が難しい場合には、「私にとって」と補って、議論を自分の土俵に引き込んでくること。
一般的な事実から始める	「最近～である」で書き出す。 誰もが認めるような事実から始める方法。 小論文は現代的なテーマが多いので、この書き方も有効。
身近な話題から始める	身の回りの体験的な事実から書き出す。 但し、小論文は私的なことを書くものではないので、身近な話題を本論まで引きずらないようにすること。

この5つのパターンを知っていれば十分である。読み手の目をひこうと、あまり懲りすぎないこと。小説ならばいざ知らず、小論文ではここにある「よくある」「定番の書き出し」で十分である。書き出しは、楽にすませて、小論文の内容（切り口の鋭さ）にエネルギーを費やすことが肝心。

いろんな方法をたくさん覚えるよりもまず、結論から始めることを勧めます。それが理系論文や英文ライティングの基本。（安倍）

（練習問題） 「国際化」について小論文を書くことになりました。どのような書き出しが考えられるか、定番の5パターンを参考にして、3つの異なる書き出しを考えよう。

ただし、時数は自由だが、どれも1文で書ききること。

6 本論の書き方 反論容認型

自分の意見とは反対の立場からどんな意見が出てくるかを予想し、まずその反論を認めたくえで、自分の立場から意見を主張する書き方この型を用いて小論文を書くメリットは、読み手に対してテーマを多面的にとらえていることを印象づけることができる点。

（具体例）「マンガの功罪」について、「マンガにはマンガの良さがある」と主張する文を書く。

序論	マンガが広く読まれるようになった。そのため、マンガの悪影響を指摘する意見を耳にするこ
----	--

	とが多くなった。
本論	確かに、暴力的なシーンや性的なシーンを売り物にしたような、子どもが読むのにふさわしくないマンガもある。 しかし、そうしたものは、ベストセラーになるほど広く読まれることは多くない。問題であると指摘されるようなマンガは、一部の人が好んで読んでいるだけなのである。多くの人に広く読まれているマンガは、小説や映画がそうであるように、感動を与えてくれるものである。たとえば、手塚治虫や石ノ森章太郎などのマンガは、今でも多くの人に親しまれている。
結論	だから私は、マンガにはマンガの良さがあると思う。

（この型が必要とされる理由）

一言で言えば、現代が複雑だから。価値観の多様化した現代では、100%の意見はありえない。どのように考え抜いても反論が必ず出る。そうした中で一方的に自分の考えだけを主張すると考えが浅いと見られる。そこで「確かに～。しかし～だ。」といろいろな意見を考慮した上で、自分の意見を述べていることを印象づけると、問題を複眼的に見ているような印象を与え、説得力が増す。

（この型の留意点）

「確かに～。」の部分は書きやすいので、ついつい詳しく書きすぎてしまう。すると自分の意見が弱くなる。割合で言うと、反論1に対して、自分の意見3で構成すること。

（この型の応用した使い方）

与えられたテーマが「～について」とどちらかの意見に断定していなくても、「～は是か非か」という問いの形に改めることができるので、反論容認型を使うことができる。例えば、「外国人労働者について」という一般的な問いでも「日本は外国人労働者を積極的に受け入れた方がよいか否か」という問題に絞り込むことで、この反論容認型を使うことができる。

（英文ライティングと比較した場合）

英文エッセイライティングの項目では次の構成法と類似している。異なるのは、英文の場合、書き手の態度は最後の結論部分まで持ち越されることだ。日本語小論文（反論容認型）だと、「確かに～。」を書いていることから、すでに一定の主張へ沿って議論が進められていることが読み手にわかっている。

（TOEFL2000のTWE）

A型の話題 対照・意見のとき

序論	第1段落	1つの問題の2つの側面を提示 背景的な知識を簡潔に記述
本論	第2段落	問題の否定的側面を議論 例示する
	第3段落	問題の肯定的側面を議論 例示する

結論	第4段落	問題について自分自身の意見を述べる その決定をした具体的、明示的な理由を述べる
----	------	--

7 本論の書き方 事例考察型

本論の書き方で、できる限り具体例をあげて、その事例を吟味、検討するという方法。「事例 + 事例 + 考察」という**本論3分割法**は、比較的書きやすい方法。事例は類似の例を並列に並べる。

(具体的例)

コンビニエンスストアについて「事例考察型」で小論を書く。

序論と結論に合うように、本論部分を300字以内で書く。

具体的な例を2つ以上あげて、それについての考察を加える。

序論	最近、各地でコンビニエンスストアが増えてきている。なぜ増えてきたのだろうか。
本論	<p>(事例)</p> <p>コンビニは二十四時間利用することができ、日常生活に必要なものはほとんど置いてある。他の商店が閉まったあとも買い物ができるので、忙しい生活を送っている人にとっては都合がよい。</p> <p>(事例)</p> <p>また、コンビニ明るい雰囲気は、私たちを引きつける。コンビニは普通の商店と比べてマニュアルがしっかりしているので、接客態度も比較的良い。誰もが気軽に立ち寄れる雰囲気が、コンビニにはある。</p> <p>(考察)</p> <p>このように、いつでも利用でき、気軽に立ち寄れるコンビニは、便利である。コンビニは多忙な現代人のニーズにあっ短店であり、私たちはコンビニを身近なものとして感じている。</p>
結論	このような理由で、コンビニは増えてきているのである。

(事例の探し方)

以下の3つのルートで探すとやりやすい。

1	自分が実際に体験したこと
2	身近な人から聞いたこと
3	本や新聞、テレビやラジオなどで得たこと

(事例考察型の本論の書き方)

事例	結論を支えるデータ1
事例	結論を支えるデータ2
考察	データを結論につなぐ理由づけ

(事例考察型で気をつける点1)

大事なことは、データを示すだけでなく、データに対して考察を加えること。説得力のある小論文の場合、事例データと結論の間に必ず考察(理由づけ)がある。理由づけがないと、データと結論の間に論理の飛躍が出て、説得力を失う。だから事例と考察はワンセットになって、初めて強い根拠となる。

(事例考察型で気をつける点2)

事例考察型は、事例選びがポイントである。結論となる主張を支えるものが必要。事例を適当に選らんでしまうと、事例を1つ2つあげただけで、そんなことが言えるのだろうか、反論されるからだ。

(英文ライティングとの比較)

英文ライティングの場合で言えば、B型に相当する。以下に比較のために再掲しておく。

B型の話題 物事の発展、発明、現象の重要性を説明するとき

序論	第一段落	どんな発展について書こうと選んだのかについての 1 説明 2 理由
本論	第二段落	どうしてこの新事態が重要なのかに関する1つ理由を議論 具体例を挙げる
	第三段落	どうしてこの新事態が重要なのかについても1つ別な理由を 議論 具体例を挙げる
結論	第四段落	段落2と3で示された要点をまとめる

8 本論の書き方 重点先行型

重要! 英語作文、英語理系論文、レポートの場合などは、すべてこの方を用いること。

重点先行型とは

序論 (冒頭)	結論 (あるいは論述の枠組み)
本論	箇条書き風に項目をたてて論証していく

(具体例)

テーマ：読書について、重点先行型で書いてみると次のようになる。

序論	インターネットが普及し、若者は特に本を読まなくなったと言われる。しかし、読書には数々の効用がある。以下、三点を述べる。
----	---

本論	<p>第一に、きちんとした日本語に接することのできる。今の日本の若者が接する日本語はメール程度の文章が多く、学者や評論家の文章を読む機会が少ない。読書は正しい日本語に親しむ機会を与えてくれる。</p> <p>第二に、読書はゆったりした気分を味わわせてくれる。本を読むにはだれにも邪魔されない静かな雰囲気が必要である。読書のためにそのような時間を作ることが、生活に潤いを与えることにもなる。</p> <p>第三に、本には温かみがある。インターネットは情報を迅速に収集できるが、画面の中は味気ない。装丁や本ならではの作り、持ったときの重みなどが、温かさを感じさせてくれる。</p>
結論	読書の効用は大きい。私たちはもっと読書に親しむべきである。

(重点先行型の特徴)

この重点先行型の書き方は、短時間で明確な文章を書く場合によく使われる。他人に文章を読んでもらう場合、冒頭を読めば、その文章で言いたいことのおおよそがわかるように書く必要から生まれたスタイル。そのため、冒頭部分で「結論」あるいは「論述の枠組み」を示して、あとは箇条書きふうに述べる。

(結論と論述の枠組みの違い)

結論	冒頭で「読書には数々の効用がある。」と結論を述べ、あとは理由、根拠を箇条書きで書く。
論述の枠組み	「読書のよさを考えてみる。」として、あとはよい点だけを箇条書きで書く。

(重点先行型のメリットとデメリット)

メリット	明快な論理展開になり、読みやすい。 箇条書き風に文章を書くので、段落も短くなり、言葉の乱れも少なくなる性質を持つ。
デメリット	項目羅列の単調な文章になりやすい。 つまり、似たり寄ったりの内容の項目を並べただけのものになる危険性がある。
デメリット克服法1	最も適切な事例を示すようにする。(正しい克服法) 思いついた順に箇条書きにするのではなく、沢山の論拠から最も説得力の高いものから選ぶこと。
デメリット克服法2	論述の中で逆接の接続語を使ってみる。 「おなじ活字メディアでも、新聞は急いで読むようなイメージがある。しかし、本はゆったりした気分を味わわせてくれる。」

というように「しかし」を使うとふくらみが出る。

(重点先行型の用語に関して)

この「重点先行型」は、英語のほとんどの論文、日本語の理科系論文では必ずと言ってよいほど用いられるスタイル。そしてこの「重点先行型」という語句は、木下「理科系の小論文の書き方」で最初に定義された語句。時間が限られている大学入試の英語エッセイライティングでは、ぜひ使わせたい型式である。

9 結論の書き方 結論をはっきりと言い切ること。

小論文では結論で自分の意見を明確に示すことが大事。結論は自信を持って言い切るようにする。高校生の小論文答案によくあるのが、「～ではないだろうか」という疑問形で意見をぼかしたり、遠回しの表現で断定を避ける言い方。これでは、結論をあいまいにして論証を逃げていると思われても仕方がない。

(具体例)

小論文の結論にふさわしい表現に、ふさわしくない表現に×をつけよ。

1	スポーツにおける審判は、いつも公平でなければならないと思われる。	×
2	スポーツにおける審判は、いつも公平でなければならないと思う。	×
3	スポーツにおける審判は、いつも公平でなければならない。	
4	スポーツにおける審判は、いつも公平でなければならないのである。	
5	スポーツにおける審判は、いつも公平でなければならないのではないだろうか。	×

3と4が断定的な言い方になっているので、ふさわしい表現。自分の意見を明確に言い切っているので強い印象を与える。

1の問題点は「と思われる」。はっきりした自分の意見ではないということを露呈している。

2の問題点は「思う」。「思う」を使うのは次の2つの理由により避ける。

A 「思う」は自分の発言に自信のないとき。

B 「そう思うか、そう思わないか」という視点で使っていると解釈され、反論を拒否した意固地な態度に取られることがある。つまり、「なんと言われようが、そのように自分が思ったのだから仕方がない」という「自己中心的なニュアンス」で解釈される可能性がある。他者の意見を拒否した表現は、結論では使用できない。

5の問題点は「ではないだろうか」という文末疑問形。主張を書くべき結論部に疑問文を持ってきてはいけない。これは他人に判断を任せたい言い方。自分で結論を下すことから逃げている。序論、本論と論証を続けてきて、最後にこれでは、それまで書いてきたことが意味を持たなくなってくる。

(正しい結論の書き方)

結論は、「～である」「私は～と考える」とはっきり書く。

重要！ 本論では根拠を徹底的に示せ。結論では断定せよ。

本論でのりくり、あいまいに述べておいて、結論で断定しようとしても論理の飛躍により無理がある。また、結論における「断定」とは、**本論で示した根拠に基づいて断言する**ということ。

(練習問題)

結論部の言い方として正しいものには を、正しくないものには×をつけよ。

1	最後に「私は～しようと思う」と、あいまいな決意を述べる。	×
2	本論では書かなかったが、結論部に新しい論点をつけ加える。	×
3	本論で論証したことに絞ってまとめる。	
4	結論を「Aとも言えるし、Bとも言える」とやや幅を持たせた言い方をする。	×
5	最後に「こんなことでよいのだろうか」と提言して終わる。	×
6	「私は～と考える」と自信を持って言い切る。	

10 600字で書く場合のポイント 全体の構成を考えて書く。

序論・本論・結論の規模を意識して小論文を書くと、六〇〇字ほどの長さが必要になる。実際に書いて練習してみる。(例題) 「テレビは低俗すぎる」という題で、今まで習った知識を総動員して書く。